

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373400880		
法人名	医療法人イケア医院		
事業所名	グループホームこぼと		
所在地	岡山県真庭市久世2910-1		
自己評価作成日	R5.10.8	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 13		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

久世地域の中心部、旭川清流の側にあり、季節の移ろいを感じながら生活することができる。通常なら家族や友人、地域との交流も活発で気軽に立ち寄れるグループホームであるが、新型コロナウイルスの発生で面会も短時間の制限になっている。事業所の理念として「その人らしく生活できるケア」を目指して職員が同じ方向性を持って支援している。より良い支援が出来る様に研修会に参加するなどスキルアップに努めている。母体が診療所であり健康面においても安心して生活でき、最期までグループホームでの生活を希望される利用者や家族が多い。看取の経験も数多く経験している。家族との信頼関係も厚い。面会制限がある中、家族に日常の生活の様子や思いをリモートや動画、電話等を利用しながらできるだけ分かり易く伝え、家族との繋がりを大切にして、入所されている方が少しでも笑顔で過ごせるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の先駆けとして平成15年に開所され、「その人らしく生きる 心に寄り添ったケア」を理念に、家族・地域・自然(四季折々の風景が楽しめる心癒される)との関わりを持ちながら安心と尊厳のある生活環境作りに努めています。見守りネットワーク事業の加入、地域ケアスタッフ会議への参加、民生委員との勉強会では認知症についての講義を行い、地域との情報交換・発信をしています。今年の夏祭りでは、入居者がみんなの着付けを手伝ってくれ、本人の特技を発見しながら「その人らしく生活できる」を支援している事が窺えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム開設以来「その人らしく生きる」「心に寄り添ったケア」を理念にし、毎年スタッフ間で年頭に目標を立てている。又、毎月一人一人のプランを立て職員間で話し合いの時間を持ち介護の統一を図り実践出来るように心掛けている。	信頼関係を大切にし、職員の意見も聞きながら目標を年頭に立てています。帰りたい願望の強い入居者には、気持ちを受け止め「心に寄り添ったケア」に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前は、地域行事の一つとして、ふれあい夏祭りを開催し地域の皆様方も楽しみにされていた。又、地域住民の方々がボランティアで大勢お集まり頂きご協力を得ていたが、新型コロナウイルス感染予防の為中止になっている。近所の方から野菜や花を戴いたり、夜間を想定し防火訓練(連絡訓練)の実施も行なっている。文化祭に利用者の作った作品を出展している。	コロナ前は保育園児が年2回訪問して入居者と作品を一緒に作ったり肩たたきをしてくれました。児童デイの子どもたちも学童の後に来てくれたりして入居者の楽しみに繋がっていました。地域の文化祭に作品を展示したりするなど、コロナ対策を取りながら地域との交流をしていることが窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座にはキャラバンメイトとして活動。民生委員さんとの話し合いに参加助言をおこなっている。地域ケア会議に参加し認知症の方が迷った際の通報訓練等に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一回運営推進会議を実施していたが約5年前から約2年半コロナ感染防止の為グループホームでは実施出来ていない。ワクチン接種と感染者減少により制限が緩くなった一時期、2年半ぶりに再開したものの再び開催中止となった。令和5年より制限が緩み再開している。	再開された運営推進委員会では感染期間中の生活の様子や活動(夏祭りや避難訓練)を報告しています。夏祭りでは、浴衣を着て屋台を楽しみました。入居者がみんなの着付けを手伝ってくれ、本人の特技を発見しながら「その人らしく生活できる」を支援している事が窺えました。運営推進委員開催日に避難訓練を行い民生委員や町内会長、消防団、委員の方々に入居者の様子等の情報共有を行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月一回市役所、包括支援センター、各介護保険サービス事業所、社会福祉協議会等が集まる久世地域ケアスタッフ会議に参加し意見交換を行っている。民生委員さんとの勉強会も行っている。地域見守りネットワーク事業の事前登録も行っている。	包括支援センターが中心となり地域ケアスタッフ(ケアマネ、民生委員、栄養委員)による課題の検討会議に参加しています。認知症サポーターに加わり認知症カフェ等の交流を通じて地域との繋がりを大切にしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来身体拘束ゼロで介護を行っている。年一回以上の外部研修と年一回以上の内部研修を実施している。困った時にはどの様にしたらよいかスタッフ全員で話し合いを持っている。毎月の責任者会議で身体拘束が無い確認している。	身体拘束委員会の議事録の確認や内外部研修の実施によって意識付けを行っています。スピーチロック(代替的な言葉掛け)や行動心理症状(ケアによる改善)への理解及び対応についてその都度話し合いを行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修は年一回以上実施している。又現在はコロナ過により外部研修やリモートによる参加をしている。内部研修としても積極的に参加し防止に努めている。カンファレンスで事例を通して検討を行っている。気づきにくい言葉での虐待は無いか、話し合いも行っている。また、責任者会議で確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年一回以上の研修を実施している。又、外部研修への参加や、施設内に資料を準備する等して権利擁護に関する知識を深めている。成年後見人制度を利用されている利用者もおられ、感染対策の中、情報交換も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に重要事項説明書や契約書に家族・本人に説明し、同意を得ている。通常は、出来るだけ本人、家族に見学して頂き納得した上で入所してもらっているが、現在はコロナ感染対策により施設内は、建物の図面や動画を活用した見学になっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部へ表せる機会を設け、運営を反映させている	運営推進会議に家族に参加してもらい意見や要望を聴く様にしている。また家族にホームでの様子が出来るだけ分かり易く、リモートや動画、電話等で様子を伝え意見等を聞き、会議を持って運営に反映している。	意見箱の設置はしていますが電話での連絡が多く、家族ともなんでも言える関係作りを目指しています。「こぼと通信」やライン動画を利用して入居者の様子をお知らせしています。日々の生活状況(楽しそうな表情やおいしそうに食べている様子)が良く分かることで家族の安心に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各ユニットごとのカンファレンスを行い意見交換をしている。二カ月に一回はグループホーム全体のカンファレンスを行い仕事の充実に努めている。問題があった場合は責任者会議等で意見交換を行っている。	各ユニットごとのカンファレンスだけでなく、日々の職員申し送り時にでた意見に対し迅速に対応されています。問題や改善があった場合には入居者の安心・安全を第一に職員間で協議して対応しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働者の雇用改善に関する雇用管理責任者講習(専門コース、総合コース)を受講し職場環境・条件の整備に努め、介護統括は衛生管理者の資格も所得し雇用管理を行っている。職員の声を広く聞くために責任者会議を毎月行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナかにより、研修にはしっかり感染対策をして参加したり、リモートの参加等、できるだけ研修を受ける機会を確保したり、働きながらトレーニングしている。また、沢山の職員が参加し易いように勤務時間内に組み込まれている。研修費も事業所負担し参加し易いようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	真庭市ではグループホーム連絡会議を六か月に一回設け意見交換を行っている。他の管理者と相談しやすい関係づくりが出来ている。現在では、コロナ感染予防をしながら、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者さんと面接をし本人・家族から困っている事や要望を聴取し、可能な限り入所前にショートステイを利用して頂き、本人が納得し希望された上で入所する様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に御家族の困っている事や要望等を聴取している。入所後は電話し生活の様子をお知らせしている。面会時には必ず様子を伝える様にしている。電話が有れば利用者様と替わり家族と話をして頂く様にしている。また、記録に残している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所しても本人・家族が希望されれば入所前に利用していたデイサービスやクラブ活動等に参加している。リハビリ訓練が必要な時には理学療法士からの指導助言を頂いている。退院後の背活機能向上連携も可能である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所しても本人・家族が希望されれば入所前に利用していたデイサービスやクラブ活動等に参加している。リハビリ訓練が必要な時には理学療法士からの指導助言を頂いている。退院後の背活機能向上連携も可能である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所時「グループホームは家族の協力が必要である」事を伝え、出来るだけ面会に協力を頂いている。こぼと通信では毎月の様子を伝えていますがもっと分かり易くリアルにお伝え出来る様リモートや動画を活用している。小さなことでも変わった事が有れば電話でも報告している。そうする事で、家族と職員の信頼関係も図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に通っていた美容院・理髪店・歯医者等に行くようにしている。利用されていたデイサービスの友人等、会いたいと言う希望が有れば、会いに行く等の交流があったが、現在はコロナ感染予防のため交流が制限されている。	コロナ前はデイ利用者との交流をしていました。実家へ行き、家を見ただけで落ち着き納得されたり、看取りの家族面会も臨機応変にしています。コロナ対策をしっかりとしながら関係継続に努めています。	今後もコロナ対策をしながら、面会の工夫(電話、窓越し、短時間の面会など)を検討していくことに期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、ホールに出て自分の落ち着ける場所に座り、歌や話し・体操・テレビを見る等をして楽しまれている。又、ターミナル等により居室で休まれている利用者があると居室を訪問し声を掛ける姿が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ前はターミナルで狩猟した家族とは、自宅で出来た野菜や果物を頂いたりしていた。現在は制は緩くなったがコロナがきっかけに減少している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い傾聴して出来るだけ希望が叶う様に努めている。帰宅願望の有る方とは、感染対策をして一緒に散歩に出掛けたり、家族にその旨を伝え協力が出来る所はして頂き本人の思いを大切に支援している。その為本人の思いに気付ける様に、寄り添いや関わる事を大切にしている。	入居時に家族に説明をし希望に添うようにしています。コミュニケーションの難しい入居者についてはなじみの職員が表情の変化を読み取って行く努力をしています。本人の状況を合わせて成年後見人制度も利用しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や暮らし方を把握し本人の最も輝いていた時代を良い時代として共有している。しかし認知症が進み家族も知らない本人も分からないケースは利用者の今を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルサインのチェックや日常生活の様子を観察し把握している。いつもと違うと思ったら管理者や看護師に報告し相談する様にしている。異常時は主治医に連絡している。業務日誌で職員間で共有する様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人・家族・担当の介護者と計画作成者で立てた計画を毎月のカンファレンスに持ち出して意見交換を行い評価して、本人の思いを重視したプランを作成する様にしている。又、6か月に1回のモニタリングを行っている。	以前、看取りで計画をしていた入居者が快方に向かった際に、本人の状態に合わせて、アセスメントやモニタリングをふまえ、介護サービス計画書作成をしています。入居者の状態を把握して現状に即した介護サービス計画書を作成する様子が窺えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、利用者が言った言葉・つぶやき・行動・そして、その時の利用者の表情や口調等をそのまま記録に残す様にしている。その他、気づきが有ればスタッフ間で共有しプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域のサロンを事業所で行っていたがコロナ感染が発生し中止になっている。重度化した利用者で、一般入浴が困難な方にはデイサービスの特浴で対応するようにはしていたが、コロナ感染防止のため、現在利用は控えている。今後対策をとり特浴の利用を勧めている。リハビリが必要な方には理学療法士から指導を受ける体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年参加して来た、地域の敬老会・文化祭は、再び、コロナ陽性者増加により参加できていないが、お祭りは毎年施設にダンジリと地域の子供たちや保護者らが来て、施設皆でおもてなしをして楽しんでいる。又、感染対策をしっかりしての、散歩は出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望で掛りつけ医に受診している。現在、内科的には母体の診療所が掛りつけ医である。ほぼ毎朝訪問され、声を掛けられ信頼関係が保たれている。かかりつけの歯科医の受診は支援している。	かかりつけ医は希望によって入居前の医院で継続しています。急変時は外来看護師へ連絡をして対応をしています。コロナワクチンの実施については生活史を知っている施設やかかりつけ医の承諾をもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回定期的に外来ナースがバイタルサインのチェックや一般状態の観察把握を行っている。異常時はすみやかに主治医と連絡をとって対応している。利用者で、心配な事が有れば必要に応じて訪問実施し、医療連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、付き添い、病院に行き入所中の情報提供を行っている。又、病院側に状態を聞くようにしている。退院時カンファレンスを持って頂き、退院後の注意する事等を職員で共通して支援している。相談員との連携も行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所後、重度化した場合や終末期など、どの様にするか指針を説明し、同意を得ている。又、病状が変わり重度化した際には、再度、どの様に終末期を迎えるか家族、主治医、看護師、と共に話し合いを持ち意向を確認し方針を共有し支援している。利用者が元気な頃からアンケートをとり最期をどこで迎えたいか聞き、家族にその思いを伝えている。家族の思いを確認しながら支援している。	入居時に看取りの説明をしていますが重度化・終末期を迎えるにあたりその都度医師から家族に説明をしています。家族間での意見が変わる場合も見守りながら寄り添って、職員が一丸となって取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナが5類になる前は、外部研修自体の中止やリモートになっていたが、施設内研修用に資料を集め、定期的に研修を行っている。実際に、誤嚥や詰まった時は、慌てず対応出来る様に話し合っている。緊急時は、母体の医院との連携も有り直ぐに対応出来る。喀痰吸引が出来る職員も増えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を実施している。又、年1回は、夜間の災害を想定した避難訓練を、近隣・町内会・民生委員も参加し実施している。	訓練へ地域の関係者が参加することで、入居者の状態を把握してもらうこともでき、支援に対する安心に繋がっています。火災報知器の誤報について対策の工夫があります。。近隣に第二の避難所として認知症デイサービスがあります。備蓄の防災食の試食も行い、見直しをしています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を無視した言葉使いをしていないか。自分で気づかぬうちに命令口調になっていないか。意識しながら日々仕事をしている。カンファレンスでも確認をしている。	個々の入居者に応じて声かけや対応をしています。特にトイレ誘導については、近くへ寄ってさりげなく視線を合わせて、自尊心を大切にしながら話すよう気配りをしています。スピーチロックについて職員間でお互い注意しあう関係ができることで質の高いケアに繋がっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定が出来る様に、「○○されますか？」とか「どの様にされますか？」と意向を聞きながら援助をしている。決め付け介護にならない様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせてケアする様に努めている。(起床時間・就寝時間・食事時間・入浴・散歩・買い物等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ感染防止の為、今は行けてないが、掛り付けの美容院に来て貰ったり、毎日の髭剃り・整容等を援助している。洋服も自分で選んで着て貰う様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、その人の好きな物・食べたい物を利用者と一緒に作れる様工夫して食事を楽しんでいる。又、個々に食べたい物の希望を聞きメニューに取り入れている。食器洗いや善拭き等も、出来る人が役割を持って実施している。外出については、コロナ感染予防の為、行っていない。敬老会の様なイベントには、仕出し弁当をとって見た目でも楽しめる様にしている。	季節の味覚を大切にしており、一緒に作る干し柿や行事食、弁当など入居者の希望を聞きながらつくっています。入居者の出来る事を見極めて役割を持ってもらうようにしている様子が窺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量のチェックを行っている。摂取量が少ない場合は、食事内容の検討を行い、形態の変更や義歯や自歯等、口腔内に問題は無いのか検討を行っている。水分も摂り易いように好きな飲み物を提供出来る様、数種類用意し、水分摂取が出来る様に心掛けている。必要な方には、トロミ剤の利用や栄養ゼリーを捕食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをおこなっている。夜間、定期的に入れ歯洗浄液に浸け管理している。必要に応じ歯科受診をしている。自歯の有る方は、定期的に口腔内の観察をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を付け、個々の排泄パターンを職員全員が把握し、声掛け、誘導などを徹底し失禁を軽減している。又、少しでも長く、出来る限り布パンツを使用する様支援しているが、夜間は様子を見ながら必要であればパット・紙パンツ・オムツの使用をしている。喋れない利用者については、表情・動き・イライラ等のサインを見逃す事の無い様気を付けて誘導を行っている。	排泄チェック表を確認しながら個々に合わせた声かけ誘導をしています。布パンツ使用を目標にパットから始め職員間で話し合いをしながら排泄用品を決めています。思いが表出しにくい入居者については、表情や仕草などの変化から読み取って支援していることが窺えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に牛乳やヤクルト。昼食やおやつにヨーグルト等を付けたり、献立には、食物繊維の多い食材を取り入れ、水分摂取量1日1200～1500ml摂れるように支援している。適度な運動も取り入れ便秘予防に繋げている。個々の排便状況を共有把握している。排泄体位も個々に工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴が有るが、本人の希望や体調に合わせて入浴形態を検討し対応している。(一般入浴・特殊浴・シャワー浴・清拭等)現在は、コロナ感染予防を優先に考えて入浴形態を変更する等して対応している。	個々の希望や体調によったり、拒否のあった場合は場面・気分転換を図りながら入浴を支援しています。入浴拒否があった際に、他の入居者からの声かけがあったりして背中を押してくれて入浴することも有ります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ体を動かす様、レクレーションや体操をして過ごしている。又、感染対策をしっかりして少人数での散歩をしている。夜は、個々の就寝時間に合わせて準備を行い、眠剤等の使用はしない様になっている。その人の体調や嗜好に合わせて居室で過ごす事もしている。又、ソファ等本人の落ち着ける場所で過ごして頂いており、休息・安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬について、効能・副作用・用法・用量を理解し、飲みにくい方には、主治医に確認のもと、つぶす等の工夫をして服薬の支援をしている。又、症状の変化についても観察・確認している。誤薬の無い様、服薬時、職員間で名前と日付を声を出して確認し合う等して工夫して誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の出来る事を大切に役割を持って生活をしている。塗り絵や貼り絵が好きな方は壁面飾りに。畑仕事得意な方にはミニ菜園。身体を動かすことが好きな方は、バタゴルフや風船バレー。その他、読書。目の悪い方には読み聞かせ等楽しめる様支援している。又、年間の行事やイベント等、皆が参加出来る様工夫楽しんで頂いている。気分転換に散歩や外気浴もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナウイルス感染症が五類になって再び陽性者の増加により、制限の緩和が難しい事から希望に添っての外出が取り戻せていない。今後の状況により、買い物・外食・自宅に帰る等、家族と一緒に過ごす時間を持つ様、支援する。	外気浴を目的にテラスでのひなたぼっこや花見をしたり、焼肉をしたりしています。コロナ流行時には、買い物に行きたいと言う希望をかなえるために地元のお店の人に来てもらう移動販売の提案をしています。家族の了解のもと家に帰りたい入居者への対応もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設で管理しているが、通院や買い物等に行った時は、お財布を渡し欲しい物を購入出来る様支援している。但し、現在はコロナ過の為、買い物はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠方の方には一か月に一回は電話を掛けたり掛けさせて貰ったり出来る様お願いしている。毎月の通信に現在の様子・状況を書く様になっている。感染対策をしながら、通常面会が出来ているが、コロナ過で面会が出来ない頃実施していたタブレットによる動画・リモートを使って家族や大切な人との繋がりを保てるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾ったりしている。利用者さんと共に掃除をし、テーブルにも季節の花を飾って季節感を味わっている。又、窓から見えるミニ菜園にも季節の野菜を植えている。温度計や湿度計を設置し室温の調整。空気清浄器を設置し換気や室温の調整も行っている。職員の声が雑音ならない様に注意している。小まめな手洗い・消毒を実施し、コロナ感染防止に努めている。	敷地内にミニ畑菜園があり、季節の野菜(なす、ピーマン、トマトなど)の収穫をしています。ホール内の壁面飾りを四季折々(七夕、蛍など)に職員と共に作成しています。出来る事を最大限発揮出来るよう支援しながらしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況を見ながら席替えを行ったり、テレビなどゆっくり見れる様利用者同士の座る位置等も配慮している。又、静かな場所が好きな方にも落ち着ける場所に行き側でゆっくり見守っている。声掛けにも気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人、家族と相談し、本人の使い慣れた物を持って来て頂いている。又、家族との写真等必要に応じて居室に貼り落ちていて生活出来る様にしている。	入居前に使っていた馴染みの品物(写真だったり、手作りの飾りなど)を持ち込んでいます。居室には作品の掲示、色紙、賞状(誕生祝い卒寿白寿など)が入居者にとって壁に飾ることで生活史が見れるようになっていきます。居心地の良い空間作りを支援しています	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーにしている。又、手すりも設置している。トイレには分かり易い様表示している。部屋が分かりにくい方には目印の花や人形等を飾っている。		